０３／０８／０３　　礼拝メッセージ　　近藤修司　牧師

主　　題：夫婦の絆を強めるカギ
聖書箇所：ペテロの手紙第一　３章１－７節

　すでに学んできたように、救われた者の大きな目的は神のすばらしさを証してゆくことでした。ペテロはそのことを私たちが置かれている様々なところで成してゆくように教えています。それぞれが置かれている所でそれを明らかにして行くのです。その具体的な方法をペテロは教えてくれます。国民として国のリーダーに従うように、組織にあっては上に立つリーダーに、主人に従うように、それがこの世にあって神を証することになるのだと教えました。
　今日はその３番目のこと、夫婦について教えられていることを学んでゆきます。
家庭はとても大切です。ある神学者は言っています。「この地上で最も天国に近いものは、夫と妻、親と子がともに愛し合い平和に過ごし、主のためにまたお互いのためにともに生活しているキリスト者の家庭である。この地上で一番地獄に近いのは、罪と不義によって破壊された不信仰の家庭で、そこでは親は口論し別れる。子どもたちは見捨てられて悪魔とあらゆる悪の力に任せられる。」と。

☆夫婦について、その互いの責任　　１－７節

１．妻に対して　　１－６節
　「同じように、妻たちよ。自分の夫に服従しなさい。たとい、みことばに従わない夫であっても、妻の無言のふるまいによって、神のものとされるようになるためです。それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」と、夫に従順であるようにと教えます。「服従」とは、自分自身の選択によって従うことです。自分を下におくことです。イエスはご自分の意志で両親に従われました。ルカ２：５１「それからイエスは、いっしょに下って行かれ、ナザレに帰って、両親に仕えられた。」。また、従うことに条件はありません。「たとい、みことばに従わない夫であっても、」と未信者の夫であっても自ら進んで「従いなさい」と教えるのです。なぜなら、それによってすばらしい証が成されてゆくからです。この「みことばに従わない」とは神の考えに無関心、従おうとしない夫の継続的な生き方の特徴を表わしています。「たとい」とは意外とかまれな出来事を表わします。すなわち、小アジアに点在する５つの教会には、まれにクリスチャンでない夫を持つ妻がいたのです。夫への従順は大きな祝福を家族にもたらします。「神のものとされるようになるため」とは彼らが救われることです。
「無言のふるまい」、無言の行ないはことば以上に力を持ちます。難しいことですが、夫に従う選択をもってそれを実践してゆくなら神は助けを与えてくれます。従順な妻は夫への祝福となるのです。家庭が祝福されるのです。あとに「サラ」の例が書かれています。箴言１２：４を見ると、「しっかりした妻は夫の冠。恥をもたらす妻は、夫の骨の中の腐れのようだ。」とあり、１８：２２には「良い妻を見つけるものはしあわせを見つけ、主からの恵みをいただく。」とあります。

　では、どうすればそのようになるのでしょう？２－５節に書かれています。
１）神を恐れること　　２節
　「それは、あなたがたの、神を恐れかしこむ清い生き方を彼らが見るからです。」と、神を恐れることを教えています。これは、どんなときにも神の臨在を覚えること、心の中のすべてのはかりごとを見ておられる神を覚えて歩んで行くことです。そして、神を愛し敬うゆえに神のみことばに従ってゆくのです。自分の思い、ことば、行ないには責任があるのです。
２）神の助けが必要である　　３－６節
　「あなたがたは、髪を編んだり、金の飾りをつけたり、着物を飾るような外面的なものでなく、むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の隠れた人がらを飾りにしなさい。これこそ、神の前に価値あるものです。」と、ここには外面よりもっと大切なものがあることを教えています。心が変えられることです。本当の美しさは心にあるのです。それは家庭にも周りにも祝福をもたらします。心が神の前に正しいからです。「柔和」とは自分自身の権利を主張しないこと、強情でない、押しが強くない、心が固くないことです。人間は本来自己中心ですから、柔和であることを学ぶことが大切です。また、「穏やか」は「静か」なことです。心が神に支配されているなら、常に落ち着いて物事に対処できます。このような生き方こそ価値があると教えるのです。なぜなら、それは周囲に祝

福をもたらすからです。そして、このような妻は祝されます。それが神のみこころだからです。
　では、このように変えられてゆくために必要なことは何でしょう？５，６節を見ましょう。「むかし神に望みを置いた敬虔な婦人たちも、このように自分を飾って、夫に従ったのです。たとえばサラも、アブラハムを主と呼んで彼に従いました。あなたがたも、どんなことをも恐れないで善を行なえば、サラの子となるのです。」と、ここから教えられることは、（１）神への信頼を失わないことです。「神に望みを置いた敬虔な婦人たち」は常に神に希望をもち続けていました。その心の態度を神に正しく飾り続けたのです。そして、（２）神への従順です。５節の後半に「夫に従った」とあるとおりです。

　６節には、サラのたとえをもってペテロは私たちに教えて行きます。ペテロがサラを持ち出したのは、アブラハムは信仰の父と呼ばれ、その妻サラとともに彼らの信仰に倣うためです。サラはいつも「アブラハムを主と呼んで」とこれは尊敬をはらったということです。サラの生涯は決して安穏ではありませんでした。ウルの地からカランへ、そしてカナンへとアブラハムに従って来ました。エジプトに下って行くこともありましたが、すべて夫に従ったのです。サラは神を信頼し続けたからどんなときも恐れなかったのです。すべての背後にあって働かれる神を信頼し善を行ない続けたのです。何が神に喜ばれるのかを考えて、主の命令に従うという信仰、穏やかな霊をもっていたのです。
そして、このメッセージは私たちに神が与えるものです。私を変えてくださいと神に願い、実践すること、私たちがこのような生き方をするとき「サラの子となる」、すなわち、サラに与えられたのと同様の祝福を得ると言います。

　祝福された女性は箴言３１章１０節から理想的な妻として描かれています。ここからその特徴を四つ見てゆきましょう。
（１）　夫から信頼されている　１０－１２節
「10 しっかりした妻をだれが見つけることができよう。彼女の値うちは真珠よりもはるかに尊い。11 夫の心は彼女を信頼し、彼は「収益」に欠けることがない。12 彼女は生きながらえている間、夫に良いことをし、悪いことをしない。」
夫のことに心を配り夫のために良いことを成そうとします。神は妻を夫の助け手として造られたことを知っているので、彼女は夫をどんなときにも励まし支えるのです。ゆえに、夫は彼女を信頼します。
（２）　勤勉　１３－１９節
「13 彼女は羊毛や亜麻を手に入れ、喜んで自分の手でそれを仕上げる。14 彼女は商人の舟のように、遠い所から食糧を運んで来る。15 彼女は夜明け前に起き、家の者に食事を整え、召使の女たちに用事を言いつける。16 彼女は畑をよく調べて、それを手に入れ、自分がかせいで、ぶどう畑を作り、17 腰に帯を強く引き締め、勇ましく腕をふるう。18 彼女は収入がよいのを味わい、そのともしびは夜になっても消えない。19 彼女は糸取り棒に手を差し伸べ、手に糸巻きをつかむ。」
　彼女は家庭の内外において勤勉に働きます。彼女は家族のために着物を縫ったり、朝早く起きて食事を整えたり、家族のために喜んで犠牲を払います。また、家族のために外で働いています。しかし、家庭を優先します。
（３）　自分を犠牲にする　２０－２５節
「20 彼女は悩んでいる人に手を差し出し、貧しい者に手を差し伸べる。21 彼女は家の者のために雪を恐れない。家の者はみな、あわせの着物を着ているからだ。22 彼女は自分のための敷き物を作り、彼女の着物は亜麻布と紫色の撚り糸でできている。23 夫は町囲みのうちで人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く。24 彼女は亜麻布の着物を作って、売り、帯を作って、商人に渡す。25 彼女は力と気品を身につけ、ほほえみながら後の日を待つ。」
彼女は利己的ではありません。人々の関心に心を配っています。同様に家族の必要にも心を配るのです。自分のことより周りを優先するのです。
（４）　みことばを実践している　２６－２７節
「26 彼女は口を開いて知恵深く語り、その舌には恵みのおしえがある。27 彼女は家族の様子をよく見張り、怠惰のパンを食べない。」
自分の舌を制し、知恵深く語ります。口から人への非難とか悪口が出ない、必要なときに必要なことを言います。彼女には正しい分別があるのです。

その結果、◎夫が大いに祝され用いられます。２３節「町囲みのうちで人々によく知られ、土地の長老たちとともに座に着く」。「町囲みのうちで」とは政治の場です。夫が大切な働きに用いられて行くというのです。妻が励まし支えるからです。

また、◎彼女は家族からほめたたえられます。２８－２９節「28 その子たちは立ち上がって、彼女を幸いな者と言い、夫も彼女をほめたたえて言う。29 『しっかりしたことをする女は多いけれど、あなたはそのすべてにまさっている。』と。」、家族に祝福をもたらすすばらしい女性、それは彼女が神を畏れる女性だからです。
「30 麗しさはいつわり。美しさはむなしい。しかし、主を恐れる女はほめたたえられる。31 彼女の手でかせいだ実を彼女に与え、彼女のしたことを町囲みのうちでほめたたえよ。」と、彼女の夫への内助の功により、夫は尊敬を受けます。これがみことばが教えることです。

２．夫に対して　　７節
「同じように、夫たちよ。妻が女性であって、自分よりも弱い器だということをわきまえて妻とともに生活し、いのちの恵みをともに受け継ぐ者として尊敬しなさい。それは、あなたがたの祈りが妨げられないためです。」と、夫の総合的な責任と義務を教えています。家庭において、家族の霊的成長、家族が祝されることを求めてその勤めを果たすのです。
夫は妻に対して三つのことを実行します。
（１）　思いやりの気持ちをもつこと
女性は男性よりも肉体的、精神的に弱い存在だから、妻を思いやることが必要です。また、自分から自らを低くしているゆえに、彼女を思いやりいたわることです。
（２）妻を理解して行くこと
「ともに生活し」とは知識に基づいて生きることです。結婚についての神の教えをよくわきまえてということです。また、彼女の長所、短所、願いなどを知った上で導くのです。そのために、妻との時間を取りよく話し合うことが必要です。
（３）　彼女を尊敬すること
「いのちの恵みをともに受け継ぐ者」だからです。つまり、彼女も永遠において主の祝福の中に生きるのです。彼女も主の前において同様に愛されているのです。

この地上で自分たち夫婦が最高の夫婦となるように、夫たちよ努力しなさいと教えるのです。妻は神からの贈りものだから、彼女を励まし導いて行くこと、夫が妻にその責任を果たして行くなら、その結果、「祈りが妨げられない」のです。「妨げる」とは、道に切れ目を作って通行を妨げることです。妻との関係、家族との関係は夫の祈りの生活に、また、信仰に影響します。妻と良い関係にあるなら神とも正しい関係にあります。夫、妻がそれぞれの責任を果たして行くなら神の祝福がもたらされ、神を知らない人々に神を証するものとなるのです。

これらの教えに対して私たちはどうするかが問われます。これらは私たちに実践できることです。神が助けてくださるからです。私たちが実践することによって神の栄光が現わされるように祈り願いましょう。